

國亡び黄なる花咲く高原を驢にして行けば月さしのぼる。
歡樂の酒にひたりて歌ふ夜の更くればかなし孤兒のごと。
孔孟の教は讀めぞ大いなるわが哀しみのやりどころなし。

一念の椿

地 橙 孫

少年の朝の挨拶木蓮に帽ふるゝ。
額の上押しつけし木蓮の息吹イソキより。
牛濡れし毛並にうつる花となり。

朝々子心に咲き念んじたる椿かな。
うなじ、椿わちぬ人身を忘られん。

酒瓶に人の手をつげざる春の風。

ひばり地をはなれて仰ぐべき我はなかりけり。
なにとなくむしるげんげに光かな。
ありあまるげんげを己がまゝにつめ。

心の沼の芦の芽のみな日に向けり。
わが向日性 朝よりの花におろがみぬ。